

## 七十七銀女川支店遺族・田村さん夫妻悲痛

## 「またもや人命二の次に」

熊本地震発生後に「イオンモール熊本」(熊本県嘉島町)で爆発が起き、テナント従業員7人が死亡した事故に、東日本大震災の津波で銀行員の息子を亡くした宮城県大崎市の田村孝行さん(65)と弘美さん(63)夫妻が心を痛めている。「またもや人命が仕事の二の次になってしまった」とやりきれない思いを吐露する。

(1面に関連記事)

## 震災の教訓

館内に戻るよう指示し、従業員2人が命を落とした。

田村さん夫妻は震災で、七十七銀行女川支店(宮城県女川町)の行員だった長男健太さん(当時25)を失った。高台に避難を望んだが支店長の指示で屋上に逃げ、行員ら12人が死亡・行方不明になった。

弘美さんは「健太の話と一緒にだと思った。震災の教訓が生かされていなかったということ。残念でならない」と無念の思いを口にする。

夫妻は企業管理下での死亡事故をなくそうと、講演や伝承活動を続けており、若い人には会社の指示より自分の命が重要だと伝える。弘美さんは「若くて真面目な人たちが、犠牲になっていくことに、怒りすら感じる」と肩を落とす。

イオンモール熊本のテナントとして入居する雑貨店運営会社「ハビタ」によると、1度は外に避難した従業員に対して、売上金を金庫に移すため

## 安全守る企業文化を

孝行さんは、企業は防災への取り組みがすぐに利益につながらないため、消極的になりがちな点を指摘。「従業員や客の安全を守るといふ人命第一の企業文化をつくることを目指してほしい。企業のトップは明日はわが身と思って最善を尽くしてほしい」と力を込める。

## 良心持って

運営会社が指示を認めて遺族に謝罪し、説明責任を果たしている点を弘美さんは「遺族にとつてはせめてもの救いかもしれない。会社が今後事故にどう向き合い誠意を示していくのか、震災を経験した遺族として見ていきたい」と話す。

夫妻は日航ジャンボ機墜落事故遺族をはじめ、同じ痛みを抱える仲間たちとのつなが

りを全国に広げてきたが、今回の事故で企業防災の訴えは道半ばであると痛感したという。孝行さんは「もっと皆に関心を寄せてもらいたいし、企業にも良心を持ってもらいたい。息子の命を無駄にしないために、思いをつなぐ人たちの輪を広げていく」と決意を述べた。

(根元優)



熊本地震で起きた企業管理下での死亡事故に心を痛める田村孝行さん(右)、弘美さん夫妻

イオン爆発 従業員犠牲